岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名　畠敷地区　急傾斜地崩壊対策事業に伴う業務委託（交付金）

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　その他　構造物基礎

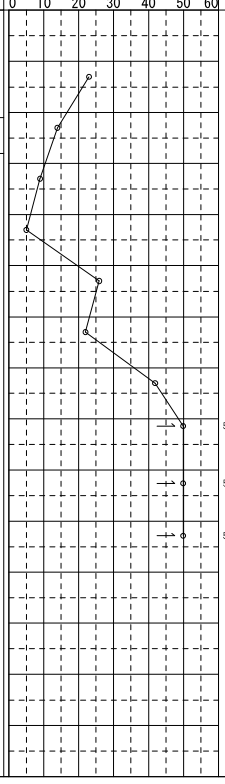
ボーリング名	R2B-4	調査位置	広島県三次市畠敷町	北緯	34° 48′ 51.8019″
発注機関	広島県北部建設事務所	調査期間	令和2年12月10日～ 令和2年12月12日	東経	132° 52′ 33.7145″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 159.71m	角度	180° 上 90 下 0°	方向	北 0° 90° 東 180° 南 270° 西
総削孔長	10.00m	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦D-0型 / エンジン：ヤンマーTF120M / ポンプ：東邦製BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%) / 最大コア長 cm / RQD [%]	記事	孔内水位／測定月日
1	158.71	1.00		砂質礫	淡茶褐								崖錐堆積物 φ2～50mmまでの火山岩角礫を主体とする 砂は細～中砂主体 GL-0.80mまで植物根を混入する	
2				礫混じりシルト質砂	淡褐～褐								細～粗砂主体 φ30mmまでの火山岩角礫が混入する。最大礫径は50mmである。 全体的に不均質である	12/11 2.10
3													GL-2.55～2.70m間　淡灰色を呈するシルトを主体とする	12/12 2.80
4			SM-G										GL-3.80～5.00m間　礫分が減少し，細砂主体となる	
5													GL-5.00m以深　やや締まった様相を呈し，砂は中～粗砂が主体である。	
6														
7	152.81	6.90		安山岩	赤褐～青灰	w4	h3	D	V	d	D		基盤岩 全体的に破砕し，部分的に指圧で粉砕可能である 土砂状または細礫上～岩片状コアとして採取される 青灰色を呈するGL-7.75～8.30m及びGL-9.70～9.90m間を除き，全体的に変質し軟質化する	
8								C	IV	c				
9								D	V	d				
10	149.71	10.00						C D	VI V	c d				
11														
12														
13														
14														
15														

標準貫入試験

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
23	1.15	23		
	1.45	300		
14	2.15	14		
	2.45	300		
9	3.15	9		
	3.45	300		
5	4.15	5		
	4.45	300		
26	5.15	26		
	5.45	300		
22	6.15	22		
	6.45	300		
42	7.15	42		
	7.45	300		
50以上	8.10	50	80	
	8.18	80		
50以上	9.15	50	230	
	9.38	230		
50以上	10.15	50	270	
	10.42	270		

深度－N値図



原位置試験	室内試験	削孔月日	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧 (MPa)	回転数 (rpm)	送水圧 (MPa)	削孔水・送水量 (L/min)	排水量 (L/min)
		12/10	57	66／ケーシング	打込み／打込みシュー	0	0	0	W1 0	0
		12/11	71		ダブル／ダブルイヤ	150	170	0	W2 5	5
		12/12		66	ダブル／ダブルイヤ	300	280			